

I (1) あ い か には当てはまる語句, う え お には数値を入れなさい。

(2) き の「-」(マイナス)は, 何を意味しているか。

●国際収支表について

日本の国際収支(総括表) (2005年, 単位: 億円)

(A)経常収支		180,479
貿易・サービス収支		76,027
貿易	自動車・電気製品などの商品貿易	103,502
(a)輸出		う
(b)輸入		522,829
サービス収支	あ	え
所得収支	い	113,595
經常移転収支	食料など無償援助・国際機関への拠出金・労働者送金	-9,143
(B)資本収支		お
投資収支		-135,870
直接投資	初外投資先の(子)会社の経営に参画するための株式取得	-47,316
証券投資	海外投資先の会社の配当・利子等を目的とした株や債券の取得	か 10,885
金融派生商品	き	-7,652
その他投資	貸付け・借入れ, ローンでの貿易, 預金	-70,016
その他資本収支	無償での固定資産・所有権の移転や債務免除など	-3,705
(C)外債準備増減	日銀などが保有する金塊, 現金・預金・債券などの外債資産	-24,562
誤差脱漏	(A)+(B)+(C)=-16,342 これですれを調整	-16,342

あ 輸送運賃
旅行・通信 特許料
い 雇員看報西州(利子配当)
か オプション・スワップ取引
う 626,331
え -27,475
お -139,575
きのマイナスは何を意味するか
き 株や債券の投資
客員の方が、株や債券の配当・利子客員を上回っている

II 1997年のアジア通貨危機を, アメリカの世界戦略の転換とからめて説明しなさい。

論述は (1)アメリカの世界戦略の転換 (2) タイをターゲットにしたヘッジ・ファン

ドの為替「攻撃」による利得の獲得の仕方などを説明に加えなさい。

ASEAN諸国を中心として、1980年代後半から90年代初頭にかけて「金融自由化」政策が実施された。過剰なドル資本が有利な投資先を求めており、アジア側にとっても恒常的な貿易赤字を補填するために外債導入が不可欠であったからである。こうしたアジア側の思惑と共に実はアメリカ側の世界戦略の転換が合致していた。というのも、アメリカは90年代に入り、連邦邦主体にともなう単一戦略的・政策的自由を手に入れた。アメリカが世界の覇権国として長らく君臨する時代のはじまりである。そして、次第にアメリカは二つの面から世界を支配するようになる。第一に、軍事力・石油の支配。石油資源の豊富な中東を支配するべく、イスラエルを衛星国として、不安定な中東情勢に介入し石油利権獲得に走るようになる。ワシントンと深い関係を保ち、イラン・イラク・トルコの三国を通るパイプライン構想を実現させるなど、アメリカの石油支配は90年代から着実に進んでゆく。1991年の湾岸戦争も、こうした石油利権獲得のためにアメリカが動いたという説が有力である。第二に、金融力による世界支配。90年代に入り、対ソ連のための軍事・安全保障費は必要なくなったことから、アメリカはその分金融に

学科目	担当者	授業曜日	学籍番号	氏名	得点
世界経済論	涌井秀行	月/木 4 時限			

軸足を置くようになってゆく。80年代に主流だった製造業を復活させるのではなく、経営体として、国際的戦略提携、アウトソーシングなどを主流とした国内に生産工程を持たない「仮想企業体としての生き残りを目指すようになる。90年代に米国企業のM&Aなどを積極的に行い、まさに世界企業としてイニシアチブをとるような企業が増大していったのである。こうした二つの点からアメリカの世界戦略は「広がり」を遂げたわけだが、同時にアジア各国の奇跡的成長をもたらした。その一つがタイである。タイはアメリカをはじめとした日本など先進国企業の工場として発展し、目ざましい成長を実現した。しかし、初めに説明したようにアジアの金融自由化政策はタイにとっても例外ではなく、成長したにもかかわらず金融緩和はタイに通貨危機をもたらすこととなった。1996年秋ごろから、アメリカの「ロスファンド」などがタイ・バーツの為替先物売りを試みるようになった。為替相場維持のためにタイ中央銀行はバーツ買い・ドル売り介入するものの、こうしたタイ側の出方を読まれたために1997年5月に投機家たちは本格的なバーツ売り・ドル買いの「空売り」を始動した。投機家たちはバーツを売ってドルを換え、バーツが暴落したときに再びドルをバーツに換えるのである。1997年6月末、タイ・バーツは1ドル25バーツのとき投機家たちは1億ドルに換える。このとき、タイ中央銀行はこうした投機家たちによる「攻撃」に備えるべく、逆のバーツ買い・ドル売りで対抗する。そのため97年準備324億ドルのうち234億ドルをタイ中央銀行は手放す事態におちいった。1ドル25バーツのときに換えた1億ドルはこのときにはもう1ドル36バーツになっていた。つまり、24億バーツから36億バーツ、プラス11億バーツを手に入れた、というからくりである。こうした動きにより、1997年タイ通貨・金融危機が巻き起こり、たちまちにインドネシア・マレーシア・香港などアジア各国に伝染してゆき、アジア全体の通貨危機が巻き起こることになったのである。なお、こうした一連のアジア通貨危機はアメリカの金融力拡大によるものであることは言うまでもない。アメリカの覇権維持のためでもあったのである。